

新宮山彦ぐるーぶ第2321回

「ふるさとづくり大賞」受賞に伴う取材協力など

◇実施日 9月15日(日) 雨のち曇り

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、大江加予子・徳子、阪口雄二、

児嶋道夫、乾克己、鳥羽真司、西克、高階美根子、

村吉光夫、山口泰宏、高橋桂太、高見恭子(初)、志

岐敬、梶野照雄

熊野修験；杉山忠英、成田瀧英

ZOO法人ネットジャーナリスト協会、巻島大樹(東京)

朝日新聞樫原支局長、清水謙司 20名

十津川村のご推薦で総務省の「ふるさとづくり大賞」を受賞することになり、今年の2月、2名で東京へ出向いて授賞式に出席した。授賞式当日から「日ごろの活動を映像化するのでご協力願いたい。」との話しがあつて、6月ごろから打ち合わせを重ねて本日の実施となった。

また、朝日新聞社からも、世界遺産登録20周年のシリーズで特集記事を執筆中なので、現場の取材をしたい。と依頼があり、樫原支局長の清水氏も同行することになった。

総勢20名の大所帯なので、参加者への連絡や配車の手配、取材の打合せ、作業内容の検討などかなり手間がかかった。そのうえ前日の14日に玉置辻に祠を設置する作業があり、多忙な日々だったが、大勢の皆さんの参加連絡をいただき、感謝している。

当日、役場駐車場で家郷課長から10月開催の実利行者の講演会のパンフレットを沢山いただいた。登山口に移動し、巻島、清水両

氏を紹介し、本日の参加のお礼と今日の作業予定などを説明して小屋を目指す。児嶋さんと乾さんは登山口の水場ホースにフィルターを取り付けるため、作業後に登る。いつも利便性を考えてくれ、本当にありがたい。



小雨の登山口



フィルターの取り付け



一列で小屋に向かう

モノレール終点に集まり、ポリタンクの水や一斗缶などを運ぶ。モノレール終点の小屋を今日から「コジマハウス」呼ぶことにした。

いつもはバラバラに小屋へ向かうが、本日は映像取材のため一列になつて歩く。小屋に到着した仲間から「6人の若者が小屋に居る」と連絡があつた。小屋に着いて話を聞くと、関西学院大学のワンダーフォーゲル部学生で、「吉野から本宮へ向かう途中、天候不順で行仙宿に停滞している。ここに来るまで山彦さんの整備で大変助かりました。何かお手伝いできることがあればお申し付けください」と、ありがたい申し出があつた。午前中は勤行とマキ割りを行うので、まずその準備を始める。今日の杉山、成田行者は行者装束で法螺も持参された。お堂で本日の作業の無事と関学6人の山行の安全を祈願していただいた。学生の一人は般若心経を一緒に唱えていた。



勤行



本日の参加者



マキ割りをする関学生

勤行を終えマキ割りを始める。マキ材は東大生の作業用にたくさん玉切りして積んでいたもので、さつそく若者6人に斧を振ってもらおう。斧で木を割るのは初めての経験だろう。最初はへつぴり腰だったが徐々にコツを掴んだようで、玄関横のマキ置き場は満杯になり、入らなかつたマキを三差路に積んで終了した。小屋に戻って昼食を摂る。26名が小屋に入るとほぼ一杯で、移動がしにくい。わいわいがやがやで大人数だと食事も楽しくなる。昼食後は沖崎、梶野がインタビュアーのため小屋に残り、皆さんは補給路の拡幅工事に向かっていた。ここでも学生6人が手伝うことになり、みんなの後を追う。一時間ほどでインタビュアーを終え拡幅現場に向かう。インタビュアー終了後にトレランの4人が通りかかり、巻島さんはこの4人からもインタビュアーを撮っていた。拡幅現場に着くと、前回の終了地点から小屋に向かって20mほどが拡幅されていた。若者6人が山側の土を削ってくれたので、進行が早かつたそうだ。杭や土留の板も底を尽き、仮止め、仮置きとした

所もあるので今後これらの資材調達と現場への搬送が急務となる。



インタビュアー中



トレランの4人にも



補給路拡幅作業

巻島、清水のお二人は、山での取材が初めてで、かなり不安があったようだが、我々の作業実態をつぶさに見て、理解も増したよう。「いい取材ができました」との言葉をいただいた。関学の6人に缶ビールやミカンなどを進呈し、6人からは「初めてのマキ割りや道の整備、おまけにビールなども頂き感謝に堪えません。充実した山行になりました」とお礼いただいた。皆さんお疲れさまでした。(記；沖崎)

行動タイム

09：00 補給路登山口 09：18→10：21 行仙宿 12：40→拡幅工事
14：10→14：45 補給路登山口